

序 文

本書は初版が2002年に、第2版が2007年に刊行された。以来、全国の獣医系大学の臨床繁殖学実習におけるテキストとして、そして現場の獣医師の技術書としてその役割を果たしてきた。とはいえ、各種動物の繁殖管理や生殖工学の技術革新のスピードは早い。この間、未成熟卵子の培養技術が進展したこともあり、体外受精由来の受精卵移植による牛の受胎率が向上すると共に経腔採卵（OPU）が生産現場で普及した。また、排卵同期化・定時授精プログラムの改良やゲノミック評価の導入により人工授精による妊娠率も向上の兆しがある。さらに、国内では和牛を中心として家畜人工授精用精液・受精卵の付加価値の高まりを背景に、不適正な流通を防止するために令和2年（2020年）には家畜改良増殖法の一部が改正された。馬の繁殖でも胚移植や体外受精は海外では普及しており、国内でも導入が進みつつある。豚においても発情同期化・排卵同期化処置が開発、人工授精の普及も一層進んでいる。伴侶動物の繁殖管理や生殖器疾患の診療も格段に進歩してきた。これらの発展や社会情勢の変化に対応するため、2021年に第3版の企画が立案され、この度、ようやく第3版の刊行に至った。

『獣医繁殖学マニュアル第3版』は一昨年に刊行された教科書『獣医繁殖学第5版』の姉妹書であり、同書を用いて学んだ知識を実習の場では本書を利用することで効率的に学修できるように配慮されている。構成は前版に続き動物種別となっているが第3版の特長として、全体の編集担当とは別に動物毎の担当者を決めて原稿チェックに関わってもらったことがあげられる。これは『獣医繁殖学第5版』とも通じる方針である。執筆は獣医繁殖学教育協議会のメンバーで分担している。これも初版からの変わらぬ方針である。一方、前版までの体裁がA4判の白黒印刷だったのに対して第3版ではB5判の2色印刷と、より使いやすくなっている。それを反映させるように、本書の英名を Practical Manual of THERIOGENOLOGY とした。さらに『獣医繁殖学第5版』に準じて牛の乳房炎の項目を削除した一方で、他の動物種では項目を増やしている。本書が学生の実習書としてのみならず、各分野の一线で業務に関わる獣医師の卒後教育テキストとしても広く活用されることを願っている。

前版から第3版の刊行までに多くの大学で教員の新旧交代があったが、先達からの弛まぬ研究成果と、そこから得られた知識と技術の蓄積の上に本書が成り立っていることは言うまでもない。前版の図表や写真を転用している項目も少なくない。先達の関係教員のこれまでのご尽力に対して心より敬意を表する。

なお、本書の初版と第2版の編集に深く関わり、獣医繁殖学教育協議会を長年に亘り牽引された浜名克己先生（鹿児島大学名誉教授）と加茂前秀夫先生（東京農工大学名誉教授）が2023年3月および2024年1月に相次いで逝去された。両先生の永年にわたる獣医繁殖学の発展へのご貢献とご功績に心より感謝の意を表するとともに謹んで哀悼の意を表する。

最後に、今回の改版に際して、執筆の労をいとわずにご協力いただいた教員各位に感謝するとともに、多大なご理解とご尽力をいただいた文永堂出版株式会社代表取締役の福 毅氏、編集企画部の松本 晶氏はじめスタッフの皆様に厚く御礼を申し上げます。

2025年3月

獣医繁殖学教育協議会 大澤 健司
片桐 成二
田中 知己